



平成 19 年 4 月 2 日

各 位

会 社 名 焼津水産化学工業株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長 坂井 和男
コード番号 2 8 1 2 (東 証 1 部)
問 合 せ 先 取締役総務・人事部長 萩原 諭
T E L 0 5 4 - 2 0 2 - 6 0 3 0
F A X 0 5 4 - 2 0 2 - 6 0 3 1

中期経営計画『Harvest Plan』策定に関するお知らせ

当社は、このたび 2007 年 4 月～2009 年 3 月の 3 ヶ年の中期経営計画『Harvest Plan』を策定しました。

現中期経営計画では、① 新たな海外事業への挑戦、② 末端製品の製造、販売、③ 調味料事業の活性化、④ 医療栄養食分野の充実、⑤ 品質の向上の 5 項目を重点課題として掲げ実施してまいりました。これらの重点課題は計画通り達成することができましたが、業界を取り巻く環境変化や、原材料の高騰による原価率の上昇の要因で、目標とした計数への到達には至らず、実施諸施策の業績面への反映が現下の課題となっています。

この課題に挑戦すべく、過去に蒔いた種を、今後 3 年間に育成・収穫するための土壌改良をどう行なっていくかを意図して策定したのが、新中期経営計画『Harvest<収穫> Plan』です。

また、当社はこの期間中に、創立 50 周年を迎えます。更なる新しい時代へ向けて、継続的な成長基盤を構築していきます。

『Harvest Plan』の概要

I. 企業理念

「焼津水産化学工業グループは、天然素材の持つ無限の可能性を追求し、“おいしさと健康”を通して豊かな生活に貢献します。」

II. 計画の骨子

1. 収益構造の見直し

収益力の向上を目指すための構造改革を実施する。

2. 組織（グループ）経営

グループ子会社を含む各組織の機能と連携の強化により、全体最適と計画を効率的に実現する。

3. 企業の社会的責任（CSR）

企業経営に向けられる厳しい視線を常に意識し、適法・適正な企業活動を推進する。

Ⅲ. 業績目標

具体的な業績目標は下記のとおりであります。

	＜連結＞		＜単体＞		(単位：百万円・%)
	第 48 期 平成 19 年 3 月期 (予想)	第 51 期 平成 22 年 3 月期 (目標)	第 48 期 平成 19 年 3 月期 (予想)	第 51 期 平成 22 年 3 月期 (目標)	
売 上 高	18,700	22,600	16,200	19,000	
営業利益	869	1,950	854	1,900	
経常利益	1,005	2,050	990	2,000	
経常利益率	5.4	9.1	6.1	10.5	

(注)連結対象子会社は、オーケー食品(株)、マルミフーズ(株)、大連味思開生物技術有限公司の3社。

Ⅳ. 重点課題

1. 増益体質の確立

品目・カテゴリー毎の開発・販売戦略を徹底し、既存高利益製品の増強、新製品投入、低採算製品の利益率向上等による安定的収益基盤を確立するとともにムダの排除による経営資源の効率活用を図る。

2. 優位性の創造と確立

他社より優れたモノづくりと技術の有効活用および他社より一歩先んじた行動によって、新製品の開発と未開拓・成長マーケットの開拓に注力し、業界において確固たる地位を確立する。

3. 組織力の強化と連携

情報の共有化を促進して全体最適を目指すとともに、営業・開発・生産部門の連携とグループ全体の結束により、経営環境の変化への対応力を強化し、バックアップ体制の充実による新規分野への挑戦を大胆に推進する。

4. 社会・顧客対応の充実

品質クレームの削減とデリバリー等顧客対応の充実はもとより、法令対応、コンプライアンス態勢、リスク管理の強化および情報の適時発信により、適法・適正な経営を維持する。

5. 人材育成の強化

全社における基本的価値観と一体感を高揚させるため、制定した企業理念や行動指針の浸透に努めるとともに、人事評価制度の見直しと人材教育の充実により、各部門・各職位の使命感と責任感を醸成し、社員の意識・行動改革（人づくり）を推進する。

以 上

※ 当資料に記載されている内容は、現時点で入手可能な情報に基づき記述したものであり、今後の様々な要因により予想数値と異なる可能性があります。